

奈良女子大学
古代学学術研究センター

平成 25 年度

第 6 回月例研究会

日時：2013 年 12 月 4 日（水）16：30～

場所：生活環境学部会議室（生環 A 棟 1 階）

内容：中世名所歌集考

— 『歌枕名寄』の成立と継承—

樋口百合子

（古代学学術研究センター 協力研究員）

和歌において地名は場所を表すだけでなく、同じ地名が繰り返し詠まれることにより、「特有の属性、固定した映像」を持つ歌語として認識されていった。平安初期から地名を類聚した歌学書が編纂されたが、平安後期に至り証歌をも所収し、名所歌集という新しいジャンルを作りだした。中世になり、こうした名所歌集は数・内容とも充実していくのだが、中でも『歌枕名寄』は写本の歌数は7千首を超え、豊富な注書・裏書を備え、歌枕辞典ともいべき中世最大の名所歌集である。特に万葉歌を1400首以上所収し、仙覚の業績がまだ流布していない頃に成立した故、古次点系の訓点を伝え、『万葉集』のどの写本にもみられぬ訓を伝えるなど、その価値は評価されるべきである。この『歌枕名寄』の成立年代とそれが伝来していく過程での万葉歌の変遷を考えてみたい。

ご自由にご参加下さい